

わたしの修習時代

紀尾井町：1948－70

湯島：1971－93

和光：1994－

54期

めっちゃ楽しかった1年半

会員 二宮 麻里子 (54期)



私は、第54期生として司法研修所に入所しました。平成12年4月に入所し前期修習を経て、同年7月から平成13年6月まで、神戸で実務修習をし、同年7月から3か月後期修習というスケジュールでした。一言で言えば、「めっちゃ楽しい1年半」を過ごしました。

前期修習では、一番後ろの席で、ズラ〜と並ぶ人（しかも、スーツだから黒っぱい！）の背中を眺める日々でした。左右は女性でしたが、この一帯だけピンクやブルーなどの華やかな色合いのスーツやシャツを着ていたため、誰が名付けたのかは分かりませんが、「リゾート地帯」と呼ばれていました。また、何組かのバンドでライブハウスを借りてライブも行いました。

こう書くと遊んでばかりいたように見えますが（ま、実際そうなんです）、要件事実の勉強なども少しはしたような気がします。

実務修習開始の前日には神戸地方で大雨が降り、何かを暗示するかのように、停電に見舞われました。

当時の神戸修習は47人、4つの班に分かれており、私が所属した班は11人で、民裁→刑裁→弁護→検察という「2回試験に落ちるパターン」で実務修習を行いました。裁判所に6か月間続いているので、裁判官や書記官の方はもちろん、お掃除の人に至るまで顔見知りという状態でした。修習生担当裁判官（女性）の官舎に班のみんなで呼んでいただいたり（当然、官舎にいる他の裁判官の部屋も襲撃）、女子会をしたりもしました（担当裁判官はガールズトークが

好きでした）。弁護修習では、メインになる修習先の他に、2週間ほど別の事務所でも修習をしました。私のメイン修習先は、大手の企業法務を扱う事務所でしたが、もう1つは弁護士1人の小さな事務所でした。事件の種類も、雰囲気も全く違う事務所を見ることが出来たのは、非常に勉強になりました。検察修習でも、検事正から警備員さんに至るまでが修習生の顔を知っているという状態でした。検事正のご自宅に呼んでいただいたり、5月の連休に班の友人で九州に旅行に行ったりもしました。

こう書くと、前期修習に輪をかけて遊んでばかりいたように見えますが（ま、否定は出来ませんが）、若手の裁判官が主催して下さった要件事実勉強会にだけは、毎回、きちんと出席していました。9回程度だったと思いますが、毎回、問題を出していただき、担当者が発表し出席者全員で討論して回答を出していく形式の勉強会でした。課題は結構ハードで大変ではありましたが、この勉強会のお陰で、後期の起案や2回試験で苦しまずにすんだのだと実感しました。

後期はさすがに2回試験に向けての勉強もしましたが、それでも、友人とご飯に行ったりして楽しく過ごしました。

修習時代を振り返ると、イロイロあったはずですが、楽しかったことしか思い出せません。大切な友人や先輩にも巡り会うことも出来ました。いくら文字数を使っても伝えきれない、やっぱり「めっちゃ楽しかった」としか言えない1年半でした。